（十八日夕刊）
磐城新聞
休刊 大祭日第一第三日曜
定價（壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵税十錢）
廣告料（二行五十錢指定廿錢増）
發行兼編輯印刷人 遊沼龍輔
福島縣平町田町拾六
發行所 磐城新聞社 電話五六番

磐中や磐女を出る 卒業生の志望

女子教育は職業的に 磐女某教諭の談

平町の縣立磐城中學校並に磐城高等女學校では來る三月に卒業する生徒について卒業後の志望についてそれぞれ本人に願した所に依ると磐中は卒業生百六十名の中卒業と同時に

就職せん とする者が三十七名、他の百二十三名は何れも上級學校を希望してゐる磐女の方は卒業生百九十三名の中大部分である百二十六名は卒業と同時に家庭手傳ひ、殘りの六十七名が上級學校の志望者である、中四十九名は師範學校の二部、他の十八名は職業本位の學校を希望してゐる職業婦人となつて經濟的に獨立すべく俸給生活者の群に入る事を希望してゐる様に、從來とは此の點が大部變つて來てゐるが近年

女子教育 の旺盛と共に女學生の思想も時勢の影響を受け從來の良妻賢母主義に滿足出來ない狀態にかはつて來たが右につき磐女某教諭は語る

「今日の女學生の思想をどんな風に取扱つたらいゝかそれが重大問題である農村 女學生を見ると月給取りを理想の夫として農村青年との結婚を厭ふ傾向があるその結果青年は村を捨てゝ漫然と都會に上る風習が近來ます／＼盛んになつて來た徒らに空想にのみ心を注がす將來堅實な女子として世に立たしむるにはどうしても在學中から職業指導を行ふ必要があるので學科目中へ實業教育を加味することになろう」と

錦信用組合

新任役員も決定

石城郡錦村信用組合創立總會は十四日午後一時より錦小學校内に開催金成村長議長となり晋般の協議の上に委員をあげ役員詮衡の結果左記當選しさらに理事組合選擧により左の如く役員決定した

△組合長星友太郎△專務理事金成欽次△理事田保邊光、下山田國太郎、金成欽次、星友太郎、助川熊太郎、高木武一郎、小野兵次△監事小松佐武郎、山野邊龜太郎、鴨驍一△信用評定委員 山木定巧、根本直枝、新井己之太郎、金成謙次、大平菊次郎、古川一、小銀治長次、星好一、佐川政吉、田子瑞穗

全國青年團

本郡より出席

大日本聯合青年團主催で青年團の指導經營と青年團に關する相互研究を目的として年令三十歳以下の青年團長または副團長をもつて資格者とし去る十三日から東京明治神宮外苑の日本青年館において第一回の講習會が開かれてゐるが出席人員は全國町村から百五十餘名で本郡からの出席者は左の通

田人村團長緑川良美、好間村好間第二團長大河原茂手、磐崎村副團長矢内英太郎

常磐炭礦を悩ます 深夜業の禁止

愈々今議會に提案され 勞働者も大痛手

常磐諸炭礦間に前年來問題となつて深夜業禁止並に婦人の礦内作業禁止を主とする改正工場法はいよ／＼今議會に

提案され る事となつたが若し通過實施されるとすれば當業者に取つては非常な痛棒であるため各炭礦業者は目下それ／＼これが對策を講じつゝあるが小炭礦の如きは或は一時休山する事になりはしないかと憂慮され大炭礦も之れがため渺からず頭を悩ましして居るが、此の禁止に依る打擊は從來三交代作業が二交代作業となり從つて

採炭場を 廣くする必要があり一晝夜に出炭した數量は晝間だけになり洗炭選炭作業も減じ夫婦共稼ぎのものは婦人礦內作業禁止からこの方風の仕事が出來ず收入が減り又婦人の力に依つて生活して來たものは生活の道を絶たれるので何等か生活の道を講じなければならず婦人の代りに男を使用することになれば從つて

賃銀が高 くなり支出は非常に増加する爲炭礦業者に取つての重大問題であるため工場法實施を控て對策に腐心して居る

石城劍道會創立

きのう元平町公會堂に 出席實に百餘人

石城劍道會創立發會式は既報の如く十七日午前十時から平町公會堂に開會會長加藤丈夫氏の開會の辭に始まり來賓の挨拶次ぎ範師高野佐三郎氏の「日本古來の武士道に就て」の講演あり終つて午後から武神祭を執行し範師高野、小澤氏の日本武德會の型を示し模範試合から郡內有段者の試合あり出席者數百人を數へ非常な盛會裡に午後五時半散會した

平税務署の 滯納整理

順調に進渉

平税務署では昭和三年度第二期宅地租並に第三期所得税の整理中であつたがこの程漸く一段落を告げたその結査は宅地租總額一萬五千七百八十七圓九十八錢中一萬五千七百十圓一十七錢が納付となり未納額七千七百七十一錢所得税は總額二金四千五百十四圓二錢の中二萬四千三百八十七圓五十二錢未納百二十六圓十錢あるが納付率は最近にない好成績を見た、なほ未納町村は好間村、大野村、赤井村、內郷村湯本町の一部である

讀者欄

酒の効用

神山 惠

米國の法律を以て禁酒したのを以て禁酒は文明國の産物と見るは早計である。濫飲酒者が身を過まり産を傾けしとて禁酒を國法を以て强へんとするは謬見である。

近來頻に禁酒說が擡頭して本縣に於ても縣會議場を賑はした、而し酒は論者の云ふが如き醜惡物であらうか、吾[illegible]其の美點[illegible]貢へんとするものである酒は人類の生存する範圍は文明と野蠻とを問はず共通的に存在するのみならず人類外に於ても人類に近き猿の如きは山中巨樹乃至岩窟に葡萄を材料とした猿酒を醸造して飲用するを見れば人類的骨格を有するものは酒精分を以て體格養成に必須要素たるを認識せらるゝのである。

英雄豪傑の多くは大酒飲の如きも一面の眞理はある酒は知能發達上の原素ではあるまいかと思ふ、酒に依りて妙に知能啓發の動機となる事がある、酒は憂の玉帚となりて沈思熟慮の逐成となり、或は喜怒哀樂も酒に依つて與沈する、酒の力や大なりと賞揚せずには居られない。

統計學者は酒造用米四百六十六萬石を食糧用に轉用せば內國産米にて日本人全部にて喰ひ切れず年々百四十萬石の剩餘米を生ずる偉大性効能を說くも酒造税二億三千八百萬圓が國庫を賑はして居る事を語らぬ。

克己禁慾の信念なく往々にして酒禍を招く輩の如きは安住性なき痴漢である、斯かる輩は酒毒に依つて夭折するが國益である而して克己有德の士が酒の德に依りて飲んでは勇躍活動して生産能率を進め尙ほ幸福には祝杯を擧げて慶祝を强調し凶災には精神を沈靜して後慮を確正にし怒念には氣をまぎらして雲散せしめ沈滯には酒氣に依りて與奮努力に好轉せしめ以て人生の活躍を鼓舞せしむる等々酒の德に依る偉大なる哉酒德である

共同で農作

神谷村で發會式

石城郡農會では農業改善の一策として農業共同作業を奬勵して來たが、農期に於て一時的に共同作業を行ふ處はあつても一ケ年を通じて共同作業を行ふ組合はなかつたが石城郡神谷村大字北神谷部落では此の理想的な共同作業を目的として農事實行組合を組織する事となり來る二十日、舊十一日から農立初鍬日をトして發會式を擧行する由で縣下でも共同作業組合は之が始めてであると言はれてゐる

第三校敷地

丸山氏落札

平町第三小學校敷地土盛工事は豫定通り進捗せしむることになり取あへず四千二百坪の中二千百坪の工盛工事を去る十六日入札に附した結果三千二百圓を以て丸山慶治氏に落札した

四倉漁港

修築促進陳情

石城郡四倉町では十三日午後五時から漁港修築實行委員會を招集し今後の活動方針につき打合せをなしたが十五日委員及び漁業組合長は加勢知事に陳情した

明日の吉凶

舊暦一月十日　新暦二月十九日

△一白 の人社交上にも我が財力を考へざれば窮すべし△二黑 の人交換する文書は注意せざれば憂の種となる△三碧 の人非常の困難に逢へども退守すべき日に非ず△四綠 の人妻は無事に見へても內に憂の潜み居る凶日△五黃 の人と競爭するときは結果は失敗に終るべし△六白 の人次第／＼と外界に伸び行く日物始めに吉△七赤 の人自重して進めば大吉橫車を推せば失敗あり△八白 の人調和を破らぬやうに注意し居れば吉日たり△九紫 の人進むも宜しけれども分限越さぬやう注意

講談 幕末[illegible]

(162) 渡邊默禪作 宮野歌春畫

讀んでゐる中に、勘太郎の手はふるへて來た濕んだ眼からは熱い雫がぽたり／＼とおちた。遂に堪らなくなつてその手紙を疊にひろげた儘、乘かぶさつて泣伏した。

「た、お君、か、勘忍してくれッ、惡かつた俺が惡かつた、そ、そんな心とは知らずに、ひ、ひがんだ根性から嫉妬らしく八つ當りをして打つたり蹴つたりしたのが恥かしいッ、ア、濟まなかつた、か、勘忍して呉れいッ」

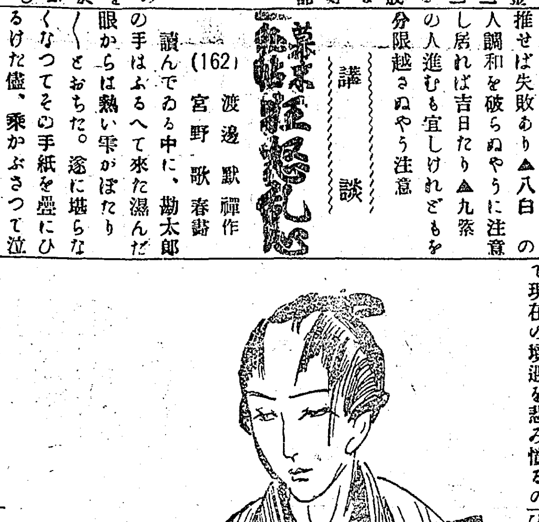
幼兒はこんな悲劇の起りつゝあることを知らぬ、破れ屛風のきたない布團にくるまれて、天使のやうな無邪氣な顏に靨るゝばかりの笑みを含んですや／＼と寢てゐるのが陰翳な行燈の片明りに淋しく照されて見ゐた。

＊　＊　＊

それから五日の後である勘太郎は父のふいんを耳にして、消え入るばかりの歎きをした揚句、他ながら其の墓に詣りをして、死水も取らなかつた不孝の詫を爲ようと思ひ立ち隱れるやうに菩提所の行安寺へ出掛けた。

冬青樹の生がきについて卵塔場に這入ると累々たる石塔の中にも一際目立つて高い塋域、こんな場所にも冨豪の肩身ひろく、虛榮の光りをてらつてゐる。勘太郎はそれを目覓けて窃々と進んだ。

それが只の墓である、しかも吾が家の墓である、その墓へ行くのに何の遠慮が要らう、然るに猫を怖るゝ鼠の墓所に忍び來るが如く四邊に氣兼しつゝ拔足しつゝ物でも盜るやうな心と態度とを以て進まねばならぬあゝ何といふ情ないことだと、勘太郎は我が姿を顧みて現在の境遇を悲み憤るのであつた。



只看ると線香の煙が盛んに揚つてゐる。たや誰かた詣りに來た跡かと生垣の蔭から伸上つて覗き込んでハツと驚いた。今し墓の前にしやがんで一心に拜んでゐる人があるのだ、其の橫顔は正しく妹の雪江。

餘りの懷かしさに直と飛出さうとしたが他に藤屋の者が居りはせぬかと氣遣つて、先づ四邊をみまわすと誰もゐない。でもなまし聲はかけられぬ。足下の礫を拾つてぱたりと背後へ落した。ふりかへつても見ぬ。エヘンと咳ばらひした、それでも猶氣が注かぬ最う心は地の底に沈んだかのやう眼をつぶつて念佛三昧―否、念佛をしてゐるのではない、深い深い追懷に耽つてうつとりとなつてゐるやうに見えた。

「たい、た雪ッ」

堪りかねて躍り出したいきなり其の肩へ手を懸けて搖ぶると、雪江は振廻つてびつくりして

「あら、兄さん！」

と叫びさま、その手を握つたなりに体を戻つて、拚と接み着いた。

兄妹は手を取交して少頃は涙に暮れた。何か言はうとしても喉が塞つて思が亂れて口も舌も利けなかつた

スター好 ナフトール着尺
新柄 モス着尺
新柄 ホグシ銘仙
其の外 色々取揃申候
平 龜田屋 電話五七

第拾五期 決算公告

資産ノ部

掛金擔保貸付金	九、五四六、二七
不動産擔排貸付金	四、七四七、三六
末收無盡掛金	一二、七五三、四五
解約末收掛金	四三、三四六、七〇
所有不動產	五、〇六四、〇六
有價證券	二、六九六、五四
假拂金	三、二一三、二五
無盡集會所加入金	一三七、五〇
營業什器	三、三五一、三九
銀行預金	八〇六、七五
振替貯金	二、四〇四、一七
營業家屋	四、二六二、六〇
營業地所	二、五一八、〇〇
金銀勘定	八、八三三、七七
合計	一六三、五八一、八一

負債ノ部

無盡給付資金	八三、九六四、八四
諸準備積立金	六、〇〇〇、〇〇
社員退職給與基金	五五〇、〇〇
資本金	一〇、〇〇〇、〇〇
社員保證積立金	七四三、五七
末拂無盡給付金	三六、一三三、〇〇
末拂入札差金	一四、八一九、三七
末拂解約返戻金	一四、八六〇、二四
假受金	二、二七四、四一
日掛假受金	一、八四三、五三
當期純益金	二、四〇三、八五
合計	一六三、五八一、八一

利益金處分

金六百圓	準備積立金
金六百圓	特別準備積立金
金貳百五拾圓	社員退職給與基金
金貳百五拾圓	賞與金
金四百圓	會長所得金
金參百參圓八拾五錢	後期繰越金

昭和三年十二月三十一日
本社 福島縣植田町
支社 福島縣平町
磐城無盡商會
會長 小宅嘉久治

當期末現在無盡給付金契約高	二、六〇五、六二二、〇〇
當期末滿會無盡完了高	九九一、〇七七、〇〇
合計	三、五九六、六九九、〇〇

平町南町
上田醫院
電話一七〇番

吉田眼科醫院

平町田町
高久病院
電話五〇・三番
醫學士 高久忠
新潟醫學士 赤羽清
藥劑士 佐竹菊雄
內科小兒科、外科花柳病科、耳鼻咽喉科、レントゲン科

內臓外科
外科一般
花柳病科
入院隨意 自炊の便あり
平町田町大通り
安齋外科醫院
電話四三六番

石城小名濱町
醸造元 吉 清水屋
清世界
銘酒
各炭鑛御用達
小野晋平
電話六番

外科一般（入院隨意）
內臓外科專門
花柳病科
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

のんですぐきく
クノー散
神經痛、頭痛、ロイマチス、歯痛、肩のコリ、其他疼痛時服用すれば奏効的確なり
論より證據直ちに試みられよ
定價 二十錢、三十錢、五十錢、一圓
平町各藥店ニテ特約販賣致します

三益玉炭のお奬め
三井物產會社ガ多年ノ研究ノ結果專賣特許ヲ得タ最モ文化的ノ木炭代用ノ高級燃料デス
□無煙無臭デ、火付ガ早ク火持チ良ク、火力ガ强ク日常ノにやきニハコンナ便利ナ品ハアリマセン
□ソレデ値段ハ大變お安ク木炭ノ三分ノ一デ充分間ニ合ヒマス
□ドンナニ喰はずきらいノ人でも一度使へバ必ズ御氣ニ召スノガ此ノ玉炭ノ特長デス
御參ス 申シカ 越テラ 次御御 第覽申 見ニ越 本供下 チシサ 持マイ
値段ハ壹箱金貳圓 個數ハ約八百個內外
平驛前
阿部石炭商店
電話二三七番

內科
小兒科
皮膚科
花柳科
平町舊城跡（城山）
青沼醫院
醫學士 青沼淡夫
電話四〇三番

火龍闘におどる 四倉の火打合
來る廿二の土曜日に 人出も萬を越す

石城郡四倉町の火打ち合ひは來る廿二日の舊正月十三日から三日間に亘り宵から同町海岸波打際において新町組中町組が境川を隔てゝ相對峙し燃えさかる薪を投げ合ひ火龍闘に躍るの壯絕！といはんよりは寧ろ頗る氣味の惡い接戰を試み觀衆をして手に汗せしむるが毎年の例である、合戰は第一夜は大体の陣容を整へる位に止まり第二夜に至つて最高潮に達し平町その他附近各町村からの人出で大賑ひを呈する、その筋の取締その他により年々その特色の薄れゆく傾向はあるが古い記錄によると
――この時幾ヶ所となく薪を積あげ盛んに火を焚く、斯くと見る間に西岸より黑布に頭を包みし幾個の壯漢が紙袋被りし猫の如く尻を向け合ひつゝ逆進すその間に火の燃えつゝある薪を取りて敵々目がけて投げ合ふ壯觀、火のつきたる薪の晴空に閃々として左右上下に飛交ふ美觀はたとふるにものなしこれがため一眼を失ふもの眼臉を剝がるものさへ出來るが却々彼等は神の思召しに叶ひたるものとして無上の光榮なるかの如く心得をれり、たま〳〵その負傷者に向ひ慰安の詞を述ぶるあれば非常に立腹する(中略)勝たる組を以て大漁あるものとなし大に祝宴を張るなど何處までも無邪氣なり云々
など記されてゐる程で地方稀に見る原始的の野趣に滿ちた行事であるが恰も良し本年の當夜は最も見るべき中の二十三日が開放されたる日曜を明日に控へたる土曜日に相當してゐるので學校の生徒や勸め人などの觀覽で一としほの賑ひを豫想された

贓品を車に積んで 提灯を持つ怪盜
北目町から逃げた處を 平署に逮捕さる

平町北目町酒商叶多屋方に十五日午後十一時半頃『こんばんは』の提灯を持ちを乘せたリヤカを引いて家の様子を窺つてゐる怪しい男のあるを折柄警邏中の平署鈴木巡査が發見し『提灯を持つて泥捧するやつがあるか』と大喝誰何すると件の怪漢は脱兎の如く逃走したので鈴木巡査は之れを追跡したが暗闇に姿を見失つてしまつたので怪漢の遺棄してゐつた件のリヤカを調べると八升入醤油樽代金約三圓四十錢一本その他怪漢の所持品と覺しき外套があるので猶詳細に調べると外套に『赤井村菅野』と書いてあるので平署では大体目星を付け同人宅なる赤井村大字赤井字大中一菅野政義方に十六日榮崎、宇澤兩刑事鈴木、宗像巡査が張り込み中を件の政義が立歸つたので本署に引致し嚴重取調べの結果神谷村大字中神谷字瀬戸生れ菅野政義事通稱鈴木伊助(二九)と稱し前記の樽は同日午後十時頃平町七軒町荒川源太郎方より窃取した旨を自白したが同夜は大倉炭坑附近の山林に潛伏し小川驛にて舟曳行きの切符を求め逆に自宅に舞ひもどつたものであると

紙魚物語(しみものがたり)□□□(下)
松本純一

私は銀色に光つた背を伸ばして宿替へしました、そこには『下らない傑作』と評判された『梅ごよみ』の作者爲永春水が未だ佐々木貞高といつてる時にモノメニアな故實者の氣質から色んな珍談を蒐集したのを綴めた一巻『閑窓瑣談』といふ代物があつたのです、所謂怪力亂神の沙汰は語るべからずの類ひの中に珍らしい語釋のイグノメントがありました、それはよく世間通になつて呼ばれてゐる熊野の牛王(ごわうと訓む)樣の牛王といふ字句が怪しいといふのです、大分古い神樣に神靈のあらたかは申すに及ばす儀だそうですから、まあ流行神の一雄だつたのでせう、その牛王といふ字句は飛んでもない間違ひだと言ふんですが自体熊野は日本源泉の産土神(うぶすな)で『いざなみの尊』にましますのでこの日本最初の生土の御神のお守りをいふ學を一刻も早く國土に知らせ樣とた守りの上封じへ生土と書いたのを後世の人が多少考古學的な發憤か、生の字の一を土といふ字の上へ付けて平氣な顏付で斷然牛王と讀ました所なんかまつたく呆れるより先ず歎せよかたちですね、そんな譯で生土は永久に牛王、替玉にその榮冠を奪はれたといふのです、こんな譯釋は式亭三馬の門人にしちやと出來すぎた業だとお思ひになる學ができませう、私は『まるに井筒の戀中をト行く水のくみかはすに深き思みの牛次郎』なんて書なぐつた『梅ごよみ』の作者に別な活路を發見してよろこび作らまた足をふんばつてこんどは帙綴り厚い本にはいりこんだのです。
そこには意外にもあの有名な蕃著先生がゐたのです青木昆陽先生を語るに何んぞさつまいもを以てせんやといへばそれつきりの話ですが昆陽先生幸ひにして博學強記の人、最も和蘭語を得意となしたと質せば何ゝさついもの語釋ばかりが能ちやなさそうに思へるんですね、それ所か此の先生、鰹の語釋がうまい、兼好の『つれづれ草』に……鎌倉の海にかつをといふ魚あり彼さかひには左右なき物にて此頭もてなす物なり、此魚おのれらわかかりし世までは、はかばかしき人の前へ出づることを侍らざりき、頭は下部もくはず、捨て侍りし物なりと申しきとあるかどうも鰹と知つて喰ひ侍べりしもののいふべき禦柄ちやないことが誰ににはつきり解りますね、そこでわが蕃著先生は此の鰹語釋最ふ民菜色無き能はずと說き倭名鈔に於ても延喜式文にても、鰹は大腊、大炊、内膳式で立派に口を利いてゐる學をのべて要するに兼好が筆とる頃は書籍廣く行はれず故に延喜式文のかつをなどとうていかつを節と判斷し難く思ふに今も西國あたりでは生魚か斤か以て秤る所もあるが夏祭の頃かつを生にて京師へ持來ることはいけなかつた所を見るとかつをよりはかつを節の氣味が多かつた樣に考へられるんですね、かつをを加豆乎と呼んだ大阪邊の氣の持も窺はれます、私の背このとき青く光りだしきした、もう睡眠が襲つてきたのです、私は古本の中で一番香りの好きな柳亭種彦の『用捨箱』の中へもぐり込んで了ひました。

後一ヶ月に迫つた 御難の入學試驗
當人も親も共に心を碎く 磐中磐女の昨今

石城地方は磐中磐女の新入學期が迫つて來たが受驗が難澁なものと定評された結果隣縣水戸へと方面をかへ水中や縣立高女の受驗者は從來に比べてしく増加した様な關係から今年あたりはその搖り返しで却つて石城寄りの多賀郡邊からも若干の受驗者あると筈で總体の受驗者數は或は意外の多數に逢するではないかと危む向もある位でこの學滿更杞憂とのみいふ事の出來ぬ情勢にある、斯くして當人や親逹の心配は蓋しなみ大抵のものでないが子供を試驗場へ送る父兄の注意として無理強ひの勉強は却て頭腦の安定を害するから勉強を勉るな、連絡的に机に向つて勉強する學は却て能率を減ずる、一時間に十分乃至十五分の休憩時間をとらせる樣にする「お前は是非入學しなければならない」といふ樣な學はいつてならぬ、試驗に對する恐怖は延いては試驗の失敗受驗後の絕望を招く食物習慣等に注意し受驗時間中は兩便を催さぬよう注意すべく、それには慈養のある刺戟の少いものを選ぶ樣にせねばならぬ

平町地方に お七風
御用心が肝要

平町地方には昨年末頃から惡性の一名『お七風』と稱する感冒が流行猛威を振るひ先年世界を荒し廻つたエンフルエンザのやうに傳染力甚だしく防疫施設も何等効を奏するところなく益々患者續出の傾向にあり[illegible]から脅威して居るが今回流行の感冒は主に中年の者に多く先づ第一に咽喉を犯され聲も滿足に出すことが出來なくなるもので幼兒には比較的少いが中年者の者が犯されるに至れば容易に根治され難い惡性のもので各家庭に於ても充分注意すべきである

さらば…… 新川の櫻
永久の別れ

平町に於ける名所の一つである新川の櫻は新川河岸改修工事を行ふ結果全部取拂はれる運命となつたので數千本の櫻樹を他に移植されるか捨て去られるかになるので南部方面では平町名所の一つが無慘にも取拂はれる學に對して反對を唱へてゐるが新川は二十八尺の河巾が三十一尺に擴張される學になり河の兩岸の櫻は全部取除かれるので歷史的にも有名な此櫻樹が永久に姿を消すことゝなるらしい

醉漢の亂暴
植田で拘留五日

石城郡勿來町關田某會社員猪狩酉藏(四五)は去る十三日植田町大字佐糠の親戚なる布施捨吉方に年始に行ふ更に同家の隱居に廻禮に行つたが、歸途再び泥醉して布施方に赴いたところ寢てしまつたので酉藏は盛んに惡口を云ひながら雨戸二枚を破り內に入り更に暴言暴行の限りをつくし戸障子四枚其他を破壞し五日間の拘留處分に附せられた

平消防組頭會

平警察署管內消防組頭會は來る廿日午前十時から平署樓上に開催し來るべき縣下組頭大會に提出する議案の協議をなす筈である

運轉手亂暴 痛いお灸
平署で懲罰

平町一丁目松崎自動車運轉手松崎一郎、同町二丁目尼子自動車部運轉手古市啓次の兩名は最近續け樣に事故を起したので平署では事故の續發は運轉手自身の不注意が原因であるとして懲罰の意味で十五日から向ふ二ヶ月間就業を停止せしめた

下士官進級
石城郡下で二名

福島聯隊區司令部管內で今回勤務演習召集中品行方正勤務勉勵成績優良で下士任官進級並に下士適任證書を附與したが本郡下では左記二名である
△騎兵伍長(夏井)青木年正△騎兵上等兵(泉)吉田義雄

氣の毒な一家に 藝妓連の同情
餅も食はぬ此の正月を 盲人一家の感泣

石城郡小名濱町字明神下按摩草野德三郎(四二)は四十年の永い間を盲目の日を送り二十年前に妻を迎へ夫婦共稼ぎをして生活を始めた頃にはそれでも幾分餘裕はあつた其の後子供が生れたのを機として

不幸 が見舞つて七人の子供の中五人迄が手當不充分で他界し妻は不治の病に苦しむ身となり長女まつ子(一七)が平町丸屋飲食店に月五圓の月給で女中に住み込み一家の生計を立てゝ居たのであつたが、何處までも德三郎に無情である運命はまつ子を病魔に取つかれ働く學の出來なくなつたまつ子は主家を追はれむさ苦しい自家の中に當時二歳の子供を加へ

親子 三名が枕を並べて病苦に呻吟し德三郎は其の日の糧を求める學も出來ず餓死するのを待つてゐる樣な有樣であるので是を知つた平町田町藝妓置屋福清方のさん子、金彌、小千代、まる子の四名は夫々金を出しあつて舊正月が來ても一切の餅も口に出來ない此の一家に若干の金と餅を送つた由であるが運命の惡戯に苦惱のどん底にたゝき落された德三郎一家は此の惠みを受けて唯々泣いて居ると

夫婦と名乘る 不審者
實は氏名詐稱

平町白銀町伊達屋旅館に去る十六日東京市淺草區藏前二六美術書畫商柳田正吾(三八)妻レン(三九)と稱する夫婦連れが宿り込んだが平署では擧動に不審を抱き取調べると實は栃木縣那須郡川西村黑羽字白旗六八古物商宮澤由太郎(三七)女は福島市新町北二一藝妓加藤レン(三五)と云ふもので平署では[illegible]所氏名詐稱により科料

に處した

蓮沼氏上京

本社副社長蓮沼龍輔氏は十七日午前三時の急行列車にて上京したが二十一日頃歸社の豫定

けふ元郡役所内に 産馬畜産總代會
今年歳入出一萬二千圓 協議を可決事項

石城産馬畜産組合組合總代會は今十八日午前十時から平町元郡役所內に開會し本年度豫算歳入出一萬二千三百七十圓で特別會計種馬資金收支豫算は歳出入七萬七百十九圓を附議し猶ほ左の記事項を協議可決した

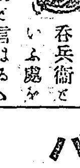
一、昭和四年度石城産馬畜産組合經費收支豫算
一、昭和四年度種馬資金收支豫算
一、昭和三年度經費借入
一、種馬資金運用
一、昭和三年度經費收支追加更正豫算
一、昭和三年種馬資金追加更正豫算
一、組合副長補欠選擧
一、家畜市場業務規定改正
一、組合經費種馬資金及基本金並共濟基金預入銀行指定
一、縣有種牡馬借受
一、議員及評議員旅費額改正
一、組合有種牡馬廢馬處分
一、事業報告
一、昭和二年度組合經費收支決算
一、昭和二年度種馬資金收支決算
一、財産表

無錢飲食の男

石城郡上遠野村右松安次郎方に於て去る十三日機械修繕業原籍大阪市當時住所不定の井上榮(三九)が四圓九十錢の無錢飲食を爲し植田署に拘留された

珍らしい降雨も 惜しや今日限り
あすから又た天氣に 小名濱測候所發表

石城郡地方は約二ヶ月の久しきに亘り雪らしい雪も雨も降らず吹き荒しの風に惱まされたがやう〳〵おさまつて今朝から珍らしく雨が降つて來た、暫らくの旱天續きに氣つかはれた農作物も少しづゝ潤ひを見せて萬物ことごとく蘇つた樣だが小名濱測候所に伺ひを立てると折角の此の雨も今夕までにはピツタリ止んでまた天氣が續くそうであるが今月の降雨は八日の午後四時頃から五時までのほんの僅かばかり降つただけで『琉球方面から黃海方面に七百六十四の高氣壓が起り滿洲に七百五十八の低氣壓と八丈島方面の七百六十六の高氣壓それから日本海沿岸の六十六の高氣壓の關係で關東地方は雨と變り午前六時頃から降り始つたもので溫度は攝氏三度五分で[illegible]から今分は平均して[illegible]りに暖かに向つてゐるから暖かい陽氣も間近であらうと』



◈男なら呑兵衛でいふ處をた鯉華通稱呑助と言はるゝ程の呑みぬけ姐さんは、皆さん御存じの通り◈ソコで此間或るひゐきの客が、此不景氣ちや自分の懷を痛めて飲むワケにも行くまいと、銘酒の一升壜を態々贈よせて吳れたものだ、是こそホントのおなさけなの下ど、サテ之れを如何にしたら呑助恐悅至極は無理からぬ持歸んべきやか苦勞の種さまいさ、た座敷か明くや直ぐあられもない女だてらにて片手に一升ビンでもあるなり、まさか引据をまくつグイ〳〵ラッパ飲み、アトはグウ〳〵白川夜舟の高イビキ、名實共に呑助となりにけりか。

俺が服見よ、自慢ぢやないが
かわぬ者ない正札堂
アラ 正札堂
物は試めしよ、正札堂へ
來てよ見さんせい服かへに
アラ 服かへに
薄利多賣はこの店の主義
不景氣なかせの福の神
アラ 福の神
正札堂

高級車貸切
開店披露
自動車御用ハ
電話三四三番(サシミ)
平驛前 昭和タクシー
澤正路

良品廉賣に勝る商略なし
磐城平町五丁目
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵金物問屋 (久) 釜屋商店
諸橋久太郎
電話 九番 一三九番
振替貯口金座東京一〇九五六番
確實敏捷は(久)の生命なり

電燈より接續してすぐ寫る
家庭活動寫眞
パテーベビー活動寫眞機
映寫器 八〇、〇〇
撮影器 六五、〇〇
フヒルム 一本 二、〇〇 二、五〇
生フヒルム 一本 一、〇〇
市內はお伺ひして御覽に供します
御申越次第カタローク進呈
パテーベビー社代理店
平町二丁目
西村屋藥舖
長電話三番

診察無料
如何なる重患でも直ちに癒る三丁目の大谷へ御出下さい
院長博士敬白
大谷時計病院
電話一九番